

# 夕陽會報



函館野外劇

第204号 総会特集号



◇ 巻頭言 ◇

## 大震災を乗り越えて

会長 橋田 恭一  
(昭和39年卒)

この度の東日本大震災でお亡くなりになられた方々に謹んで哀悼の意を表するとともに、被災された皆様に衷心よりお見舞い申し上げます。

震災発生から四ヶ月余り、一向に進まない被災者への援助や原発の事故処理等に苛立ち感じながらも一日も早い復興を切に願っています。

私はテレビ映像で三陸海岸地域の惨状を目にした時、岩手県支部の総会でお会いした方々のお顔が脳裏をよぎり、不安を抱きました。数日後、田面木支部長からの会員無事の知らせに安堵。しかし、自宅を流出された方々が多数いらつしやること。本部として直ちに義援金をお願い致しまして、多くの会員のご協力をいただきました。本当にありがとうございます。

さて、大震災に対する海外メディアによれば、「日本の人々は、辛抱強く、冷静で、秩序を保ち、実に気高い精神を見せた」「我慢強いその振る舞いに感動した」等と伝えていきます。

一方、ハーバード大学の白熱教室で人氣を博しているマイケル・サンデル教授は、急遽予定を変更して、インターネット中継で、ボストン、上海、東京の学生相手に「究極の選択」私たちはどう生きるべきか」を講義しました。その中でアメリカ、中国の学生の反応に興味をもちました。いずれも日本人の冷静な行動に賛辞を送っており、ボストンの女子学生は、「日本人がとった勇敢な行為に誇りを感じて、同じ人間として強く共感を覚えた」と賞賛しています。

世界各地で起こった大災害では、略奪や便乗値上げは当たり前、アメリカの口サンデルス大地震やカトリーナによる災害時の様子は我々にも記憶に新しいとい

ころです。驚いたことに、アメリカでは災害時の略奪は法制化して認めよとの動きもあるとか。しかし、日本では略奪や便乗値上げがまったく起きなかった。そこにサンデル教授は感動し講義をする動機ともなったようです。

世界の人々が支援の動きを見せたのも大災害の惨状以上に、被災した方々の忍耐強い態度や冷静な行動、そして、自身が災害を受けながらも、自分以上に窮状に喘ぐ他者への気遣い、そうした行為、行動に感動したからであります。

思えば、日本人は聖徳太子以来、和を旨とする国柄であります。相互支援の精神は長く祖先が培って国民性ともなっているものです。

藤原正彦氏は、震災後の人々の行動に触発されて一気に「日本人の誇り」を上梓しました。一部抜粋すると、「原発への放水の際に見せた消防隊員や自衛隊員の決死的行動は海外の新聞で『ヒーロー』と一面トップを飾りました。『これから原発に行く』とメールで妻に告げた消防隊長に、『日本の救世主になってください』と返答が届いたそうです。日本人は、まだ日本人だったのです。日本人特有のこの美徳は普遍的価値として今後必ずや論理、合理、理性を補完し、混沌の世界を救うことになるでしょう。日本人は誇りと自信をもつて、これを取り戻すことです。これさえあれば我が国の直面するほとんどの困難が自然にほぐれて行きます。」と主張されています。

教職に身を置く皆さん、そして、地域社会で活動する方々、藤原氏の言を待つまでもなく、我が国の将来を担う子供たちに、しっかりと日本の国柄を伝えていきたいですね。

## 顧問・参与会

平成二十三年六月三日（金）函館国際ホテルにおいて、第四回本部役員会に引き続いて、顧問・参与会が開催された。副開会に先立ち、全員で「夕陽讃歌」を合唱し、会が始まった。

冒頭の挨拶で橋田会長は「今、全員で夕陽讃歌を歌ったが、この歌は本当に良い歌だとしみじみ思う。六月十八日の札幌での懇親会では、六百名の大合唱で声高らかに札幌の地に夕陽讃歌を響かせた。」と札幌大会への期待を語った。

今回は、青柳副会長が議長を務め、議事が進行した。

総会議案の審議では、二十三年度の活動に関わり、特に新卒会員の入会促進、若手に関する研究支援補助の新設等に重点を置くことが確認された。その後、役員改選について協議し、最後に、このたびの東日本大震災に関わる義援金の総額と、その配分の仕方について詳しい説明があった。

## 全国支部長・幹事長会議

平成二十三年度の全国支部長・幹事長会議は、十年ぶりに総会と大懇親会が開催される札幌パークホテルで、六月十八日（土）午後一時三十分より二十四支部が参加して開かれた。

司会進行は橋山庶務部長、議長は繪面・天野副会長が務め議事が進められた。副会議では、母校の現状や平成二十二年年度の会計および監査の報告、平成二十三年年度の運営方針・予算案・総会運営について協議された。

後半の各支部からの報告・交流では、奥崎幹事長代行より、先の東日本大震災で被災した会員への義援金の配分等について報告があり、その後若手支部の田面木支部長がスライドと資料で若手県内の被災状況について説明した。

また、各支部からの話題提供では帯広市支部と十勝支部の合併や後志支部の組織改編の取組についても報告された。

## 総会・大懇親会

一つに集うことを大切に

平成二十三年  
度  
夕陽会総会

平成二十三年度の夕陽会総会は、六月十八日（土）、十年ぶりに札幌の地、札幌パークホテルで開催された。冒頭、先の東日本大震災で犠牲になられた方々へ黙祷を捧げた後、全員で夕陽讃歌を歌った。審議に先立ち挨拶に立った橋田会長は、十年ぶりの札幌での総会・懇親会のために奔走した札幌市支部の関係者等に謝辞を述べた後、「同窓会で、まず大切なことは一つに会することであり、そこからすべてが始まる。その意味で今日はたくさんの方の会員諸氏にご参加をいただき大変心強く感じている。」と話されたあと、先の東日本大震災で被災された会員への義援金の額の多さに触れ、「同窓としての強い絆をひしひしと感じている。これからも共に助け合う夕陽会でありたい。」と締めくくった。

次に議長として、四辻順一氏（檜山）、近野豊氏（札幌）、日向稔氏（高等学校）を選出し、役員選考委員・議事録署名名人等を確認した後、議事および別室での役員選考に入った。

報告事項では、土谷幹事長より平成二十二年会務・事業報告が行われ、本部事務局各部の活動や一般会務・支部総会等の状況、会員の動向等について報告があった。続いて溝口財政部長より①通常会費会計②基本金会計③教育支援基金会計の三会計について一括して報告があり、五百川監査からはすべて適正に処理されている旨の監査報告があった。

母校関係では、新生・北海道教育大学法人化八年目・新キャンパス体制六年目の現状について報告され、新学部構想と教職員大学院の開設に向けた取組、札幌駅前サテライトの開設と利用状況、卒業生の就職状況等が話題となった。その後奥崎幹事長代行より東日本大震災で被災された会員への義援金の配分等の説明があり、すべての報告事項は拍手をもって承認された。

協議事項については、はじめに土谷幹事長より平成二十三年度の運営方針並びに推進事項の提案があった。本年度も「創造し行動する夕陽会」をモットーに次の六点を推進事項とし、本年度も特に重点項目（※印が重点事項）を明らかにして活動することが提案された。

- ①組織強化と運営の効率化
  - ※教職外会員及び新卒会員の入会促進
  - ※女性会員及び若手会員の運営への積極的な参画
- ②人材の育成
  - ※被災支部への積極的支援
  - ※指導主事及び教頭等の管理職候補者の発掘と支援
- ③財政の確立と業務の効率化
  - ※財政基盤の確立と諸会費納入の促進
  - ※諸業務、事業の見直しと再構築
- ④研究・研修の奨励と文化事業の推進
  - ※研究・研修助成並びに研究内容の紹介、若手枠の新設
- ⑤母校への支援と地域貢献
  - ※就職対策関係事業、教育採用試験対策関係事業への支援
- ⑥夕陽記念館（北方教育資料館）の整備活用
  - ※夕陽記念館内外の環境整備、陳列品の整備、電子的保存（アーカイブ化）

## ・大懇親会

於 札幌パークホテル



被災状況について説明する田面木支部長



# 平成23年度 夕陽会総会

平成23年 6月18日(土)



総会で挨拶に立つ橋田会長

## 十年ぶり 札幌の地で集った 大懇親会

十年ぶりの札幌の地での大懇親会は、中島公園で古くから歴史のある札幌パークホテルで開催されました。今回は、記念すべき札幌大会ということで、二部構成で大懇親会が進行していきましました。

まず第一部は、午後五時三十分より記念講話を企画し、北海道教育大学の将来像」と題してお話いただきましした。ご講話の中で本間学長は、特に函館校のこれまでの経緯と将来のあり方についてふれ、学部化構想を今後も推進していきたいと語りました。

続いての第二部は午後六時から始まりましした。まず天野哲征副会長の先導により来賓の方々が入場。会場には盛大な拍手が鳴り響きました。続いて今回の札幌大会開催のためにご尽力くださった札幌支部の青柳史匡副会長の力強い開会宣言によつて、札幌での大懇親会がスタートしました。恒例の「夕陽讃歌」は、指揮を札幌市立光陽小学校 亀山比佐先生が伴奏をピアノ講師の一人関晶子さんが務め五百八十名の歌声が会場いっぱいに響きわたりました。

会長挨拶で、橋田恭一会長は、十年ぶりの札幌での懇親会に五



百八十名という会員が、遠くは富山県の方を含め参加してくださったことに心からの謝辞を述べたあと、「九十三年という歴史の中で夕陽会は今大きく変わりつつあるが、今後は教育界だけでなく、民間を中心とした後輩諸氏も迎え入れながら、自らも自己変革を遂げ、それぞれが自分を磨き、同窓の絆の強さを大切にする会としたい。」と語られました。

来賓挨拶では、はじめに吉田一昭北海道教育庁学校教育局長が「十年ぶりの札幌に世代を越えて集う皆さんを見ていて強い絆を感じている。教員養成大学として良い先生づくりのために現職教育のフォローアップを行い資質能力の向上に組織的に取り組んでいることに敬意を表したい。今後も北海道の子どもたちのために力量を発揮してほしい。」と期待をこめて述べられました。

次に挨拶に立つた本間謙二北海道教育大学学長は、先程の講話の謝辞を述べた後、「会場に詰めかけた会員の数の多さに夕陽会のパワーを感じている。今後も様々な形で大学運営にご協力をお願いしたい。」と述べられました。

続いて本年度新たに会員となったフレッシュな若者たちがステージ上に整列、中には富山県から参加した平成二十三年卒の山本真裕さんの姿も見られ、会場から大きな拍手が沸き起こりました。続いて夕陽会を代表しての新会員への激励の言葉を中瀬裕義参加が述べられ「厳しい時代だが晴れて社会人になった皆さんの活躍を心から期待したい。『困った時の夕陽会』『頼りになるのが夕陽会』である。私たちは皆さんを支え、応援している。どうぞ社会で大きくはばたいしてほしい。」と力強いエールを贈られました。

次に鴈澤好博副学長（函館校担当）の御発声で祝宴が幕を開けました。

今年も会場内は各卒業年次毎の席で、道内各支部から札幌に集まった同期の会員達は互いに旧交を温め、在りし日の青春時代の思い出話で大いに盛り上がりましした。

懇親の中では、札幌市支部のご好意で札幌市支部有志による校歌・学生歌も披露され、懇親会に花を添えました。

宴も佳境に入り、いよいよ恒例のエールの時間です。今回は、後志支部の余市町沢町小学校 秋田 匡先生（平成四年卒）が大鼓にあわせて会場に入場、檄文を読み上げ、エールを熱演しました。

いよいよ会も締めくくり、トリを飾る恒例の寮歌のために小林周次先生が御登壇。その後、ご来賓や役員の方がお揃いの夕陽会の法被を羽織って次々とステージ上へ。小林周次先生の名音頭で思い出深い寮歌の大合唱が始まりました。三本締めの後、また会場全体の余韻は醒めやりました。函館市教育委員会山本真也教育長が盛大に締めの乾杯の音頭を取り、伊勢昭副会長が、閉会を宣言して、総勢五百八十名が参加し、十年ぶりに札幌で開かれた夕陽会大懇親会は、盛会のうちに終了しました。

この会のために、ご尽力いただきましした札幌市支部をはじめ多くの皆様に心より感謝を申し上げます。



# 平成二十三年度 夕陽会運営方針並びに推進事項

## 《運営方針》

「創造し行動する夕陽会」をモットーに、会員一人一人に活力と潤いをもたらす運営の充実と活動の活性化を図り、次の各事項の深化拡充に努める。

## 《推進事項》

### 1 組織強化と運営の効率化

会員相互の連携を重視し、各界会員の組織化と会運営の効率化を図る。

(1) 各界の会員動態の把握と広報活動の充実。

(2) 支部、ブロック、部会活動の充実と本部との連携強化。

(3) 教職外の会員及び新卒会員の入会促進。(重点事項)

(4) 女性会員及び若手会員の運営への積極的な参画。(重点事項)

(5) 夕陽会報204、205、206号の発行。

(6) 母校及び附属学校園に関する情報の収集と活用。

(7) 被災支部への積極的な支援。(重点事項)

(8) 人材の育成

人材の発掘と会員の資質と地位の向上を図る。

(1) 会員である道・市町村議会議員、首長、教育行政管理職等との連携。

(2) 関係機関・団体に所属する会員との連携。

(3) 各支部の研修活動等の支援。

(4) 指導主事及び教頭等の学校管理職候補者の発掘と支援。(重点事項)

(5) 財政の確立と業務の効率化

活発化する活動の維持・発展を図るため、財政の確立と財務の効率的な運用に努める。

(1) 財政基盤の確立と諸会費納入の促進。(重点事項)

(2) 財政業務の効率的処理及び財務管理システムの構築。

(3) 諸業務、事業の見直しと再構築。(重点事項)

### 4 研究・研修の奨励と文化事業の推進

会員による個人及び協働の研究等を奨励し、特に明日の夕陽を担う若手会員の研究・研修意欲の高揚を図る。

(1) 研究・研修助成並びに研究内容の紹介、若手枠の新設。(重点事項)

(2) 会員による文化事業の奨励。

(3) 夕陽文化事業・教育講演会等の検討。

### 5 母校への支援と地域への貢献

母校の発展を願い、当面する課題解決のための支援を行う。

(1) 大学の地域連携・社会貢献への協力・支援。

(2) 在学生(会員予定者)に対する同窓意識の啓発。

(3) 就職対策関係事業、教員採用試験対策関係事業への支援。(重点事項)

(4) 学生のスポーツ・文化・芸術活動への支援。

(5) 夕陽記念館(北方教育資料館)の整備・活用

改修された夕陽記念館内への、各種記念資料等の収集と適切な保存、展示、活用を図る。

(1) 会員の作品、記念資料等の収集と会報やWebページでの周知。

(2) 夕陽記念館内外の環境整備、陳列品の整備、電子的保存(アーカイブ化)の試行。(重点事項)

(3) 夕陽記念館の教育活用。

(4) 夕陽記念館の学生・地域住民への開放と管理の検討。

(5) 夕陽記念館活用準備室の機能化による活用促進。

(6) 百周年記念事業に向けた諸資料の収集・整理。

## 夕陽会本部 事務局業務分担

### 庶務部

榎山 聡(附属小副校長)

1 諸会議(含懇親会)の諸準備及び進行、記録

2 文書の收受、発送及び保管

3 会員の慶弔事務

4 その他、庶務に関する事

### 財政部

溝口 幸司(港小長)

1 通常会費の徴収、支出事務

2 基本金及び特別会計の徴収、支出事務

3 予算書、決算書の作成

4 前納会員に関する事務

5 その他、財政に関する事

### 組織部

福井 博志(附属幼稚園長)

1 支部組織の編成と組織強化対策

2 会員の動態調査(支部別、校種別会員名簿)

3 支部役員名簿等の作成、会員名簿の作成にかかわる資料の収集

4 その他、組織全般に関する事

### 情宣部

古川 邦彦(榎法華小長)

1 「夕陽会報」の発行

2 事務局報の発行

3 その他、情宣に関する事

web委員長

鳴海 裕(高丘小長)

○ 夕陽会ホームページの作成とその管理

### 文化部

中村 吉秀(亀尾小中長)

1 会員の文化活動に対する支援

2 文化事業(音楽会・美術展・書道展等)の企画、実施

3 その他、文化に関する事

### 研修部

林 敏雄(峠下小長)

1 会員の地位向上対策

2 会員の個人及び共同研究への助成

3 支部・ブロックにおける研修活動に対する支援

4 その他、研修に関する事

### 厚生部

鳴海 康司(白尻中長)

1 会員の親睦及び福利、厚生事業の企画、実施

2 記念資料及び会員の作品収集

3 夕陽記念館の整備、充実

4 その他、厚生に関する事





平成二十三年 支部役員名簿

[illegible]

## 就任ご挨拶

## なお一層の結束を！


 副会長 絹野 重治  
(昭和40年卒)

この度、副会長の大役を仰せつかり、職責の重さを痛感しているところです。今まで、財政、庶務、総務の一員として、夕陽会の各種業務にかかわって参りましたので、その気持ちを更に強くしております。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

これまでの業務の中で特に強く心に残っていることは、「夕陽会創立八十周年記念」の記念事業に携わったことです。何人かの作成委員と共に千葉軒岳先生の書の基「夕陽会旗」と「夕陽会半纏」づくりを携わり、支部会旗として各支部に旗を配らせていただきました。「夕陽会旗」と「夕陽会半纏」が夕陽

## 重責を担って強い絆に感謝


 副会長 田面木 茂樹  
(昭和48年卒)

この度の総会において副会長という大役を仰せつかりました。重責に心が引き締まる思いです。会長、役員の皆様のご指導を頂きながら夕陽会のさらなる発展のために全力を挙げ努めたいと存じます。よろしくお願いいたします。

さて、忘れられない三月十一日に発生した、東日本大地震津波は、岩手だけでなく東北三県に対して、想像を絶する甚大な被害をもたらしました。すぐ、三陸沿岸地域で教職に就いている仲間の安否確認を行い、車や家屋等を流された方が多くいらしたことが分かったのです。その中で、御主人や娘さん、御孫さんを亡くされた方がいらしたこと

会の士気高揚と結束のシンボルとして、現在、有意義に活用されていることをとても嬉しく思うと同時に、夕陽会の今後の結束、発展のために、なお一層役たつてくれれば幸いと思つているところです。これからの取り組みとして大切なことは、「人間地域科学課程」となった大学の卒業生が、いかに未永く夕陽会の一員として行動していくかということ。卒業と同時に全国に広がって行く卒業生を組織化していくことが、夕陽会の結束、発展の力ギになると思つています。支部会旗として、結束のシンボルである「夕陽会旗」が、全国的に数多く必要になって行くことを願つてやみません。

は、本当に悲しい出来事でした。

本部では、すぐに同窓会の皆様に支援の要請を行い、義援金を募り、支部に送つて頂きました。本当に感謝しています。

夕陽会の強い絆を強く感じました。岩手支部長の引き受け、今まで支部の発展と仲間との絆を作りあげる事に努めてきましたが、全体をまとめるまでには至っていません。今回の被災を受け、さらに支部をまとめ、仲間の絆を強めていきたいと考えています。

「創造し行動する夕陽会」を心にし、歴史と伝統ある夕陽会の強い絆づくりのために協力でありますが、頑張りたいと思います。

## 教育を共視する私の中の夕陽


 副会長 藤井 壽夫  
(昭和49年卒 函館市立的場中学校長)

この度、函館市中学校長会長就任に伴い、夕陽会副会長という大任を仰せつかりました。会長はじめ、役員の皆様のご指導を賜りながら、夕陽会の充実・発展のために、精一杯職責を果たして参る所存です。私は夕陽会八十周年、九十年の時、夕陽合唱団に入っていたとき、夕陽讃歌等を唱いました。またウエブ委員として数年間ホームページの仕事をしていただいたことが、どちらも多くの方々に世話になりました。夕陽会の方々に、大変楽しく、夕陽への熱い思いと共にずっと心に残っています。ところで私は昭和三十三年に函館市立八幡小学校に入学し、家が田家町であったため、当時通学路の指定などなかったことから、時々、桐花寮の前を通つて帰ったりして

## 就任にあたって


 副会長 花田 雅博  
(昭和49年卒 北斗市立上磯小学校長)

このたび、渡島中学校長会長就任に伴い、夕陽会の副会長を仰せつかりました。微力ではありますが、橋田会長はじめ、先輩諸氏のご指導を仰ぎながら、夕陽会の発展のために精一杯頑張りますので、よろしくお願い申し上げます。私は教職に就き、三十代後半から十年間附属養護学校（現附属特別支援学校）に席を置いたことから、夕陽会との付き合いは長く、大変お世話になりました。その後、教頭として檜山管内に出て夕陽のメンバーから励まされ、助けていただきました。

さらに、校長採用になった年から三年

いました。確か小三の時だったと思います。ある日、寮の二階の窓から数人の学生が、お菓子をあげるから上がって来い」と声をかけるので、友人と一緒に上がつて行くと、三人ほどの学生がかりんとうと英字ビスケットをくれました。そして自分たちを相手に授業の練習をしました。後になって、あれは恐らく教育実習のリハーサルだったのだと推察しましたが、五十年経った今でも、ほんわりとした記憶の中で、今は七十前後と思われるあの優しい学生さんのことは私の夕陽の重要な一つとなっています。中学校は新学習指導要領全面実施を来年度に控えて、多くの課題と真面向き向う日々ですが、夕陽会の方々に支えられながら乗り越えていきたいと存じます。一年間どうぞよろしくお願い申し上げます。

間檜山支部幹事長を務めさせていただき、檜山の皆様には大変お世話になりました。残念ながら母校である北海道教育大学函館校には、教員養成の課程がなくなり、失うことなく、新しい教育理念と方向性を持った大学としての存在感を示していただきたいと思います。

夕陽賛歌の一節にある「夕陽、とこしえに」のとおり新しい風を吹き込んでいくように、微力ながらお手伝いしたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



## 就任にあたって

副会長 藪 敬

(昭和53年卒 上ノ国町立上ノ国小学校長)

このたび、檜山校長会副会長の就任に伴い、夕陽会副会長を仰せつかりました。橋田会長をはじめ役員の皆様、先輩の皆様方のご指導を賜りながら、力量不足ではありますが、夕陽会の尚一層の発展のために力を注いでまいりたいと存じますので、よろしくお願い申し上げます。

私はかつて平成十四年度から十六年度までの三年間、江差町立日明小学校での教頭時代に檜山支部幹事を務めさせていただきました。今年度夕陽会本部副会長に就かれた花田雅博校長のご指導の下、主に檜山支部会計の業務に携わりました。また、五月の支部総会、新会員の歓迎会、二月の「先輩を送る会」などの企画と準備、運営に関する業務を大過なくとり行うことができたのは、会員の皆様のご理解とご協力のおかげであり、同窓意識の絆の強さがあつたからこそと思っています。会員相互の結びつきの大切さを改めて認識させられました。

私が新卒で檜山に赴任した頃は、檜山管内の教職員は九割方夕陽会員でありましたが、現在、会員数はけつして多くはありません。しかしながら、会員数が減りつつあつても、夕陽会員としての熱い想いと誇りをしっかりと守っていくことができるよう努めていきたいと考えています。それと同時に、本会のためにお役に立てるよう頑張ります。



## 就任にあたって

副会長 伊勢 昭

(昭和49年卒 函館市立柏野小学校長) 近

この度、副会長の大役を仰せつかりました。微力ではございますが、橋田会長はじめ諸先輩のご指導ご助言をいただきながら、夕陽会の発展のために努力してまいりたいと考えております。

母校を卒業して以来、その時々夕陽会の方々に励まされ、温かい手を差し伸べていただいたことが思い出されます。

昭和四十九年に根室市立北斗小学校に採用された時は、函館を離れ、心細い気持ちでいっぱいでしたが、勤務校や近隣の夕陽の諸先輩からのご指導ご助言をいただき、同窓の温かい気持ちをとて



## 幹事長に就任して

幹事長 奥崎 敏之

(昭和60年卒 北海道教育大学附属函館中学校副校長)

この度の総会において、幹事長という大役を仰せつかることになりました。果たして自分にこの大任が果たせるものか、戸惑いと不安の中に日々を過ごしているというのが偽らざるところです。二年前に組織部を担当した際には、会員名簿を管理するデータベースの再構築が最大の課題となっておりました。こちらの方は何とか完成し、平成二十二年版の会員名簿の発行や、これまでの卒業生の就職先を会社別に分類した業種別名簿の作成、東日本大震災時の東北在住の同窓の検索などに繋げていくことができました。そして何より、この組織部の仕事では、会員名簿の記載事項を確かめるために初めてお電話した先輩から、温かい励まし

やねがら言葉を頂くなど、本当に多くの会員の皆様から、同窓会の仕事の大切さを学ぶ機会をいただきました。四月に幹事長代行を仰せつかり、これまでとは違った立場で改めて夕陽会の仕事を俯瞰し、会員の減少や、就職先の多様化、財政状況の厳しさなど様々な課題が先鋭化していることを改めて感じました。できることをする幹事長ではなく、しなければならぬことをする幹事長でありたい。たとえ自分の代ではためでも、次代、次々代で実現できる礎となる仕事を積み重ねたい、そう思っております。未熟で至らない点も多々ございますが、前幹事長同様に、会員の皆様のご協力、お力添えを今後とも引き続き賜りますようお願い申し上げます。



## 副幹事長に就任して

副幹事長 福井 博志

(昭和60年卒 北海道教育大学附属函館幼稚園副園長)

この度、附属函館幼稚園副園長という立場から、副幹事長(兼組織部長)の任に就くことになり、日々その責任の重さを感じております。

幼稚園に着任する直前まで勤務していた附属中学校での十一年間に、組織部員として夕陽会員の情報収集作業や会員名簿の発行のお手伝いをさせていただきま

した。組織部の重要な仕事に、現幹事長の奥崎先生が作られたデータベースに会員の異動等の情報を入力する作業があります。最初は、各方面から届く情報をコンピュータに入力する単純作業と思っておりましたが、画面上から、遠距離にいる

知人の異動や、「不明」だった先輩の住所を知り、望外の喜びを味わいました。一方で、知り合いや恩師を「死亡」の欄に打ち込む時は、言い表せない寂しさを感じました。

組織部では橋田会長のもと、会員情報をできるだけ正確に把握すべく作業を進めておりますが、近年、同窓生の就職先が学校関係だけでなく民間企業にも広がり、さらに個人情報保護法により、情報収集は年々困難さを増しております。

今後とも会員の皆様には、情報提供を含め様々な形で協力をいただきたいと思います。ですが、精一杯働く所存でございますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



## 受章記念 瑞宝双光章



## 夕陽回顧五十年

岡田 義明

(昭和34年卒)

平成二十二年五月叙勲の栄、皇居において前会長の川島孝夫氏夫妻と共に陛下の拝謁を戴き、隣合せて記念写真を撮る。夕陽会報で拝見したお顔に声を掛け同窓の絆を祝す。

小生昭和三十四年卒、以来夕陽諸氏の世話になり今日に至る。勤務地は後志、先ず喜茂別中を振出し野村勉校長(6卒)に寿都弁で教職のイロハを教わり小学校経験の重要性を示唆される。また安達整指導主事(22卒)には蹉跎にあつて励まされ立ち直る。岩内東小では村上孝吉校長(6卒)の元で授業研究の緒に就き、京極小では岡田数夫教頭(22卒)に支えられ池澤章校長(23卒)に教育行政への道を開いて頂く。教

育局では中山素水局長(24卒)、後藤田信主査(28卒)、本庁の小木(32卒)・田村氏(32卒)に指導を受ける。鈴川小から「へき地教育」に没頭、その緒は市田幸蔵氏(29卒)に頂き、以来大西弘美氏(31卒)を初め、全道の同窓に支えられ、岩手や東京の全国へき地教育研では遠く離れた夕陽の緒氏から声を掛けられ同窓のよしみを満喫する。

江別転居後、同期の斎藤文雄・守山和男・菅谷蕃氏と四人会で縁を深めている。回顧五十年、実に夕陽万歳の日々、多謝あるのみ。

## 特別寄稿

## 十年振り、札幌市で開催の夕陽本部総会・大懇親会に出席して

## ～バンカラ、夕陽魂の歌をもつ一度～

古旗 英捷

(昭和40年卒)

・教職課程が無い新学科になり、夕陽会は、沈む夕日のイメージが強いと思う人は多いようだ。果たして、そうなのか？

・「陽はまた昇る」と言うのではないか。「夜明け前」なのである。夜明けを「黎明」とも言う。何とも格調高い言葉ではないか。即ち、新しい時代の幕開けなのだ。

・学校教育中心の夕陽会が「教員養成」という看板を「コミュニケーション重視」という看板に変えたのだ。人間は一人では生きていけない。他者とかかわることで生きていくのだ。当然コミュニケーションが必要だ。これまで夕陽会は、教職養成を通して、この人間は一人では生きていけないという「教育の本質」いや「人生の本質」を、引きこもりとして時が流れ、「無縁社会」に引きこもったという問題が生じている現代、これからは、コ

・コミュニケーションを大切に作る地域づくりに貢献できる人材の養成が求められる新しい時代となったのだ。さあ、みんな夜明けの歌を歌おうではないか。「コケコッコー！」と。

・加えて、もう一つ。己の利益追求社会の現代のために尽くすことが幸せなのだという考えを持つ。即ち、他者とかかわりを重視する生き方である。帆を操るヨットは、風を頼りとする他力本願のスポートである。他(風)とかかわりが大事だということ、さあ、みんなでもう一声「アラ、ヨット！」

・夕陽会の伝統は脈々と続き、そして新しい道もまた洋々である。そんな気持ちで愉快に家路に就いた札幌市で開催の夕陽本部総会・大懇親会であった。

## 夕陽会ホームページの利用について

夕陽会ホームページはweb委員会により、刷新されてから4年が経過しました。現在まで、約23,000人の方からアクセスがありました。母校や同窓会の活動の様子、各支部の現在など最新の情報を夕陽会員の皆様に提供すべく、更新作業に努力しております。

夕陽会ホームページ  
の主な情報

会長挨拶、名称由来、教育精神、夕陽記念館、夕陽会の歩み  
会員数、組織、規約、会旗、夕陽讃歌経過  
母校90周年記念式典、支部・本部掲示板  
本部・支部・支会だより、会報紹介、本部会報  
渡島支部会報、函館市支部会報、歌のアルバム「讃歌、校歌、寮歌他」  
母校の活躍、母校の今日、母校の歩み

映像あり、音楽ありとこれまで以上に豊富なコンテンツと母校への思いが深まる工夫が加えられています。ぜひ一度、アクセスしてみてください。

また、個人情報保護法の完全施行にともない、法令の趣旨を遵守し、広報活動の健全性を保つよう努めています。会員の皆様の御理解と御協力をお願いいたします。

<http://www.sekiyou2005.sakura.ne.jp/>

情宣部web委員会委員長 鳴 海 裕 (昭和54年卒)



## 感謝、全国の夕陽会員に

前幹事長 土谷 敬

(昭和54年卒 函館市立えさき小学校校長)

平成二十一年、総会において御承認をいただき幹事長という大任を仰せつかりましたが、この度、二年の任期を終え、退任することになりました。安島元会長様、川島前会長様そして、橋田会長様をはじめ、役員の皆様の御指導と会員の皆様の御協力をいただきながら、甚だ微力ではありましたが、副幹事長も含め八年間、夕陽会創立九十周年事業や夕陽記念館改修事業など、大きな節目の夕陽会の運営に携わらせていただき多くの経験をさせていただきました。

この間、全道、全国の支部総会等に出席させていただき、各支部の活動の状況を実際に見聞きしたり、たくさんの方の会員の皆様とお会いできましたことを幸せに思っております。とりわけ大先輩のお話をうかがい、多くの夕陽の歴史を学ばせていただきました。学生時代のお話はもとより、支部創設の御苦労や笑い話など、夕陽会や学生時代を過ごした函館に馳せる会員の皆様の思いを知らなければ知るほど、幹事長職を遂行する力がわいてきたことを思い起こしております。

各種会議において本部の活動方針をお伝えしてきましたが、その意を体しての各支部の真摯且つ着実な取組に改めて敬意を表する次第です。

一つ気がかりなことは、私の残す任期をわずかにして、三月に発生しました東日本大震災のことです。特に、この度の震災で被害の大きかった陸前高田市をは

受章おめでとう  
ございます

### \*瑞宝双光章

西谷 富士雄 氏

(昭和18年卒)

函館市梁川町二二の二

後藤田 信 氏

(昭和28年卒)

倶知安町北三東五の二

## 会務報告



幹事長

奥崎崎 敏之

(昭和60年卒)

### 《一般会務》

4/2 北海道教育大学合同入学式に橋田会長が出席する。(札幌)

27 北海道教育委員会高橋教育長と橋田会長が懇談する。(札幌)

5/13 学生対象の夕陽教育フォーラムを開催する。(函館)

20 会計監査を行う。

27 第3回本部役員会を開催する。(函館)

30 岩手支部に義援金を青柳副会長が届ける。(岩手)

6/3 本部役員会、顧問参与会議を開催する。(函館)

### 《支部総会・懇親会・同期会・個展等》

4/9 函館市支部総会に橋田会長、土谷幹事長が出席する。(函館)

16 空知支部総会に橋田会長が出席する。(岩見沢)

23 札幌市支部総会に橋田会長が出席する。(札幌)

29 釧路支部総会に奥崎幹事長代行が出席する。(釧路)

5/6 室蘭市支部総会に橋田会長が出席する。(室蘭)

口口/7 小樽市支部総会に橋田会長が出席する。(小樽)

7 上川支部総会に奥崎幹事長代行が出席する。(旭川)

### 平成24年度

## 本部総会・懇親会

◆期 日 平成24年6月16日(土)

◆会 場 函館国際ホテル  
(函館市大手町16-9 ☎0138-23-6161)

・総 会 午後4時～5時  
・懇 親 会 午後5時30分～8時

7 石狩支部総会に橋山副幹事長が出席する。(札幌)

12 函館市支部幹事会・新会員歓迎会に橋田会長、奥崎幹事長代行が出席する。(函館)

14 十勝・帯広市支部総会に橋田会長が出席する。(帯広)

14 檜山支部総会に奥崎幹事長代行が出席する。(江差)

21 後志支部総会に橋田会長が出席する。(倶知安)

27 苫小牧市支部総会に福井副幹事長が出席する。(苫小牧)

28 (昭和33年Ⅱ類卒同期会に橋田会長が出席する。(函館)



# 東北大震災に伴う義援金活動の報告

(昭和60年卒)

北海道教育大学附属函館中学校副校長)

幹事長 奥崎崎敏崎之

この度の東北大震災に伴い、被害に遭われた多くの同窓会員を支援すべく、三月下旬より各支部・前納会員にむけ義援金募集のお願いをいたしました。お寄せいただきました義援金の総額は六月十五日現在、のべ二十五十七人の方から、三百八十四万五百万円となり、同窓の安否を気遣い復興を支援する多くのお気持ちいただきました。

本部では、お寄せいただいた義援金を同窓から同窓に直接かつ速やかに届けるべく、四月中旬に、青森県各支部、岩手支部、宮城県の校長職の同窓(宮城支部は活動がほぼ休止状態となっていたため)などと連絡を取り、被害状況や会員の安否確認、義援金についての考えなどを伺ってまいりました。

青森のある支部からは、あまり被害の無かった自分のところよりも、被害の大きかった岩手や宮城の支部に差し上げて欲しい旨のお話をいただき、この度の義援金については、被害の甚大であった岩手と宮城の両支部に向かってお届けしていくことに方針を固めました。

震災の被害状況の把握については、支部がしっかりと機能している岩手は田面木支部長様にお願ひできたのですが、宮城については、お願ひした校長職の先生も多忙を極めるなど、その全貌を把握する術を見いだすことがなかなかできませんでした。

平成二十二年の会員名簿では宮城支部には二百七十名余の会員があり、その一人一人についてインターネットで公開されている安否情報を確かめる作業も行いましたが、同姓同名の存在など確認を得られるまでの情報とは言い難く、六月上旬に住所が明確な個人四十九名と勤め先の住所が特定可能な百八十二名について本部より直接往復葉書を送付して安否や

被害状況の確認を行っています。その結果、宮城については本日(六月三十日)までに、被害なし三十九名、被害有り三十名(家族の死亡、家屋の全壊や流失などを含む)、転出・転職先不明四十二名といった状況が確認されております。日本赤十字には義援金の配分が遅いといった批判が社会から寄せられておりますが、義援金の配分においては、被害の全貌をつかむことが必要となります。

しかし、岩手も宮城もその全貌の把握にはまだまだ時間がかかるため、夕陽会では、会員よりお寄せいただいたお気持ちを一日でも早く被害に遭われた方にお届けするために、岩手と宮城の海岸部の市町村(岩手は陸前高田市、大船渡市など十二市町村、宮城は気仙沼市、南三陸町など十五市町村)に住む会員の方を会員名簿から総べりリストアップし、その市町村の罹災率(人口と被害に遭われた人数の比率)を勘案し、岩手支部と宮城支部に二二・八・三(額にして二百八十万・百五万)となるよう配分案を決定し五月二十七日の役員会で承認をいただきました。

そして、去る五月三十日に青柳副会長から岩手支部にこの度の義援金の目録をお届けし、田面木支部長より同窓からの安否確認の連絡が励まし、気遣いが本当に心の支えになっていることをお伺いしたところでございます。

この後、本部では、岩手支部の配分基準などを参考にしながら宮城で被災された方への義援金のお届けについて順次取り組んで参りたいと思っております。

この度の震災に際して、会員各位の同窓を思う熱い思いに触れ、本部事務局一同全力で取り組んで参りました。改めて会員各位のこの度のご厚情に感謝申し上げます。

# 義援金のお気持ちに感謝して

岩手支部長 田面木 茂樹

(昭和48年卒)

平成二十三年二月二十六日、本部より繪面副会長をお迎えして第二十七回岩手支部総会を花巻市で行いました。とても楽しい時間を過ごしたその二週間後、東北大震災にみまわれました。震災直後は、情報が入手できず、どこで、何が、どうなっているのか全く把握できませんでした。

「何とかしよう、でも、何をすればいいのだろうか」という状況の時、橋田会長より夕陽会で義援金を募り、被害に遭われた支部への支援を行うという連絡を受けました。あの混乱した状況の中で、夕陽会ということばを聞き、なぜか安心した自分がありました。それから、支部として被害状況の把握に努めました。しかし、ガスや水道、電気はもちろん、道路や電話も使えず情報を収集するのに苦労しました。何とか集めた情報から、夕陽会員が多く住んでいる宮古市や釜石市、陸前高田市、大船渡市では、車や住んでいるアパートが流失した会員は多数。家族を亡くした会員もいることがわかりました。岩手県沿岸部では、人事を今年度については凍結することとし、被害にあつた子どもたちへのケアとして、慣れ親しんだ先生が当たることになりました。三月末には、避難所となつている体育館で避難生活をしている人々に祝福され卒業式を挙行している姿はテレビ等でご覧になったことと思います。

そして、平成二十三年度となりました。まだまだ、復興が進まず、通常の入学式をする状況にはどの学校もありませんでした。しかし、日本各地からの励ましのお手紙や支援の物資を多くいただきました。



<復興のシンボル「一本松」>



<青柳副会長と田面木支部長>

た。海外からもたくさんいただきました。子どもたちには、励ましのこばによつて、笑顔が戻ってきました。その子どもたちの笑顔が、みんなの元気に変わっていききました。四月下旬には、入学式が行われるようになってきました。そして、五月三十日、夕陽会本部より青柳副会長が義援金の目録をもつて来県されました。同時に、夕陽会の皆様の優しさにふれることができました。あらためて、夕陽会のすばらしさ、行動力の速さに驚かされました。橋田会長をはじめ全国の夕陽会の皆様に岩手支部を代表してお礼申し上げます。

今年は、皆様からいただいた義援金を岩手支部の会員に配布すること、第二十八回岩手支部総会を開催し、夕陽会の活動を継続することを目指していきます。今後ともご支援をお願い申し上げます。あの千年に一度の大津波の中で生き残った「一本松」をシンボルとして「がんばろう岩手」を合い言葉に、岩手の子どもたちが元気で明るく、未来に向かってたくましく生きていくことができよう頑張ります。

義援金をお寄せいただいた皆様

〈前納会員・OB会員の皆様〉

【道央ブロック】

相場 山田 早川 林 福田 野村 安彦 巖 梁川 村田 林 笹川  
尾 幸 淳 潤 義 幹 信 整 治 貞 雄  
み 夫 司 三 勝 雄 榮 郎 夫 晴 吉  
き 子

寺谷新小関字坂笠青西扇櫻  
西内谷松井井元原柳澤谷井  
宣健美建晴田利信繁秀  
雄巖治夫治穂翠秋昭行二雄

岡田 尾 珠子  
加藤 尾 豊  
大野 悟  
高橋 俊男  
盛下 定男  
高橋 桂樹  
安宅 貞雄  
高橋 茂廣  
渡辺 豊進  
橋本 容一  
飯野 正夫  
中瀬 裕義

尾野信一 佐藤 丈夫 但馬 聰 天野 裕明 小松 健三 西卷 誠二 榮田 昌 小山 總一 泉 義一 義下 雄一 染谷 満喜子

加藤	小寺	横山	吉川	菊池	遠藤	川嶋	池田	橋岡	横山	大江
					田				尾	
清晴	憲雄	悟	賢司	芳郎	博三	忠雄	久子	勝利	眞昭	早苗

二柳隆道  
風間 隼子  
住山 明  
吉武 貞子  
上野 達治郎  
鹿野 田力也  
佐々木良則  
伊坂政宏  
高橋 悦男  
佐藤 静雄  
原田 守

藤原 昭雄  
手塚 滋  
吉井 博賢  
嶺外 美男  
米坂 敏則  
卜部 弘  
佐々木 勲  
中村 陽子  
長南 克己  
大橋 瑞惠  
近野 恭一

大野 武昭  
青柳 史匡  
橋本恵美子  
小野田正實  
吉田登美子  
板谷 勝  
細井 道三  
藤原 祐助  
堀 槇子  
池沢 章  
佐藤 光雄

安住 上元 太田 松尾 町田 津山 百刈 野口 浅井 間谷 清水  
範男 啓紀 達雄 忠雄 治雄 功正 正充 嘉嗣 昌司 文男

林 史知  
酒井 郁夫  
佐藤 照彦  
虻川 輝行  
久保田 武雄  
亀田 光男  
石井 久  
大原 道子  
新覚 吉郎  
佐々木 盛人  
谷内 静子

【道南ブロック】

宮腰屋世  
能代久司  
近藤富太郎  
石倉孝  
能山裕子  
丸山辰雄  
保坂重子  
西谷文子  
多胡豊  
長谷川良任  
水間良光  
布目知之  
附田誠一  
加藤枝弘  
三田篤子  
松坂澤矯  
小林信夫  
坂上和男  
和田照子  
桑名巖  
岩井悦子  
小山直子  
山口ミネ

北村	能登	大平	三島	北林	安東	三上	安川	大泉	高枝	田中	関口	札内	小西	小原	谷内	狩野	寺井	本宿	山谷	森下	田島	和田
圀彦	山賢	昭三	俊博	正男	璋二	哲子	平八	亮子	幸宏	純一	征男	俊昭	鉄雄	谷博	利悦	和子	子之介	礼司	英治	善隆	善雄	

岩谷	鈴木	伴山	川島	長澤	富樫	米谷	松坂	菊地	高谷	小笠	鎌田	沼崎	秋田	田村	相澤	西谷	千葉	林	初井	奥野	菊地	瀬川
一夫	耕一	明	孝夫	三郎	進	秀文	澤加子	枝子	三枝子	孝	賢壽	孝男	正彦	憲雄	玄二	弘	俊司	俊郎	豐	茂	恒忠	和夫

山田 一雄  
伊藤 吉三郎  
林 保彦  
山本 セツ  
高木 和夫  
高橋 久夫  
新井 田レイ  
堺 谷 要夫  
蓬萊 谷幸治  
伊藤 万喜  
山本 俊秀  
高市 一男  
高橋 悦雄  
池上 信廣  
橋本 昭巳  
大釜 澤節  
富尾 勝  
中山 伸朝  
吉田 邦子  
竹内 美恵子  
高橋 勇  
佐藤 山清司  
小笠原 雅

平野 鈴木 小山 夏井 佐藤 川村 丸山 片桐 山形 池田 笹原 大淵 白井 遠藤 米坂 熊野 高島 菅原 鈴木 川岸 中濱 寺澤 森澤  
山昌 邦光 澤利 英和 龍亮 雄三 幸谷 泰清 清二 巧秋 一樹也  
毅博 吾男 豐孜 郎朗 幸子 生三 茂助 定志 彦行 二巧 秋雄

祝田	長沢	関口	中島	大井	藤澤	本間	大沼	高橋	山尾	長沢	松村	和田	齋藤	三上	佐々木	門馬	山本	相馬	小川	小山	鎌倉	敦澤
松利	勇	文雄	隆男	勝也	建二	谷昭	秀行	正	高德	裕	泰作	幸子	枝子	枝子	精一	喜久栄	禔	まり子	修平	英子	山孝	陽子

中川眞一郎  
黒沢 一雄  
古谷 慶治  
田口 公紀  
野口 和夫  
半野 昭義  
小笠原 胖  
池田 桂子  
塩崎 設男  
門脇 協和  
青木 潔  
船橋 瑩次  
外崎 清次  
下國 博子  
谷口 幸夫  
寺山 秀彌  
澤田 克之  
三河 和宏  
新家 健明  
齊藤 孝孝  
奥谷 雅雄  
能代 靖之  
島田 誠

小林	堀口	坂口	五百川	新家	石津	瀧沢	原	大坂	西田	吉田	中村	野呂	竹山	川島	半田	吉村	山柿	辻口	岡田	水野	佐野	牧
和子	邦彦	直義	藤忠	藤代	兼一	房美	顯彰	昭雄	哲夫	恵悦	正之	健	脇隆	幹雄	哲	八男	三夫	直弘	司朗	明夫	武	清

岩崎 勇  
大川 富美男  
片上 耕  
佐々木 恒雄  
佐々木 岩男  
豊岡 栄子  
佐藤 正男  
岩村 吉男  
羽原 義満  
安井 脇蔵男  
柳田 幸男  
大津 堯雄  
加藤 丁都夫  
藤沢 信弘  
大平 村洋  
清野 唯夫  
恒本 智子  
神尾 道子  
小橋 美枝子  
稲垣 喜代子  
坂口 一弘  
高屋 幸教  
恭男

藤田健一	宮下順次	齋藤英明	山本正吉	藤田秀美	水上文夫	今野利明	梶三枝子	池田脇忠行	山本忠行	近藤幸雄	工藤幸雄	寺井幸雄	佐藤武良	國田悅朗	高岡松藏	山田富雄	岩田朝幸	田仲明子	新榮藤正巳	菅原昭一	石原佑一	太田悦子
------	------	------	------	------	------	------	------	-------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-------	------	------	------



[illegible]

河村 克也	大門 正人
後志支部	110口 <sup>7</sup>
	7

小樽市支部 総幹事 山口 隆夫

## 【道南ブロック】

加藤 美雪	新井 幸恵	横山 慶子	中山 玲子	佐々木 正幸	大山 由佳	小野寺 幸子	厚谷 幸子	白戸 礼美子	堀切 川治	松本 伸吾	上平 智子	溝口 礼恵	鈴木 純子	時田 伊将	松浦 伊和	米坂 祐子	加賀 紀子	小泉 真紀子	市川 泰子	宮上 慶子	木村 幸子	高川 幸子	谷川 忍	村上 幸子	八木 圭一	山崎 伸子	土野 梓	高野 梓	神田 郁子	鍋嶋 直子	丹治 恵	菅森 浩	三上 幸喜	松田 恭子	盛 健	切明 学	青木 完二	岡川 篤	安倍 陽卓	渡辺 卓	
黒川 達朗	阿部 真之	三浦 俊一	阿部 哲也	館田 聖徳	米田 康子	須田 晃至	土谷 敬	伊多 波西里	福山 美晴	北村 雅昭	畑中 雅昭	小仲 義高	長谷川 圭介	村岡 英樹	古山 曜子	杉山 昭夫	奥田 祥子	澤田 裕子	山本 昇吾	弓庭 美帆	赤坂 厳男	尾山 史華	戸澤 和彦	塩谷 美鈴	紺田 喜智	田口 喜義	山本 公作	早崎 文重	松田 ちあき	五十嵐 和幸	中嶋 幾子	藤山 隆子	近江 西辰仁	土田 信正	新濱 美喜子	八重澤 絵里奈	村上 仁希	仲井 靖典	佐藤 伸幸	伊藤 晃	
工藤 敏典	藤本 久美子	小林 朋子	高村 幸子	佐野 幸秋	宗像 英明	渡辺 敬夫	淀川 仁	佐藤 正道	高瀬 理砂	宮越 忍	山形 弘枝	田畑 昌子	渡辺 朋子	佐藤 さかえ	高橋 桂子	岩井 啓子	吉田 麻夕子	鍋谷 信子	蛇沼 京子	碓 幸信	菊池 雅子	岡野 芳恵	中山 博行	青山 勝賢	工藤 淳子	ソート 美弥子	中村 眞弓	古山 有香	佐々木 章吾	橋田 西大輔	吉原 志津子	中村 純子	山崎 純子	中村 進	吉田 友樹	辻 淳	山縣 毅				
川森 綾子	浅利 節子	林 井良子	酒井 光史	中埜 渡信裕	若竹 淳一	日景 伸介	寺本 公彦	対馬 茂樹	平馬 隆司	高橋 栄一	林 潤子	数又 和子	柿崎 雄二	品田 晃宏	富樫 中廣幸	田畑 俊夫	鈴木 貴子	水島 賢久	長畑 一幸	大山 一代	大島 昌恵	中村 昌照	宇佐美 美樹子	小井田 成美	光成 彰彦	田辺 志穂	安彦 有里恵	石垣 順子	須藤 政子	梶山 博美	高間 秀一	小西 晃久	矢本 秀美	野坂 正己	菅 政也	阿部 菜穂美					
澤田 慶一	佐野 太三	澤田 真次	今井 福一	吉田 優子	栗田 淳子	吉田 とも子	中村 誠司	澤田 秀樹	竹内 聖江	上山 佳彦	宇美 頼子	柳田 美幸	厚谷 志保	本間 達也	松本 尾康宗	三津 橋中淳	八坂 由喜枝	剣地 峰子	近藤 宏	佐藤 光博	小林 玲子	柳田 慎司	山下 英小幸	尾刀 久美子	小田 江里	今井 眞理子	中貝 恭太	山本 直樹	田澤 まゆみ	須藤 由司	三浦 樹里	伊藤 光	木村 貴裕	佐藤 礼章	高神 仁志	澤口 典子	長谷川 秀雄	笠島 美教	鈴木 亮		
寺澤 春住	及川 雅子	桃井 雅樹	外崎 勝人	中島 久美子	佐々木 好美	行友 眞理子	三國 万里	池野 教史	山岸 一徳	清水 美恵子	滝山 田敏子	若林 義記	小野寺 徹	澤田 晶子	佐藤 洋子	中村 こず恵	宮川 典子	佐藤 祐司	鈴木 豊	神田 隆	佐野 綾都	浅野 英彰	柳島 英亨	新山 英亨	白幡 俊一	田上 悟	福崎 梢	松村 淳	山田 誠	田中 貴裕	佐藤 礼章	木村 理希	高神 典子	澤口 仁志	溝口 明良	内城 幸之	谷掛 享之	中村 英彦	北辻 智子	野中 尚子	下山 訓



佐々木壮一 内木 隆幸 竜  
増田晃一郎 井田 大育  
小田桐智 伊藤 雅範  
滝花晋 小川 伸一  
畑山修一 磯部 直広  
横井真 田上 克佳  
小野寺淳 安達 史浩  
木村恵子 小川 昭夫  
鍛原博史 笹木 昭夫  
長澤一男 吉田 亨  
大村俊幸 石郷岡 卓  
中村吉秀 鈴木 聖一  
松下一賢 森 茂之  
内藤一志 福井 博志  
吉田稔 菊地 功  
横山節郎 田中 幸樹  
小濱誠 白川 卓  
渡島支部 404口

渡邊 信之  
澤田 康子  
藤井 壽夫  
小阪 忠弘  
福嶋 大史  
林 弘明  
森 直樹  
鈴木 利治  
三上 和宏  
明石 美樹  
中嶋 洋子  
安達 幹彦  
阿部 二郎  
小林 元貴  
三浦 範喜  
高橋 亜矢  
小笠原 学

佐藤 美加  
谷口 嘉朗  
寺崎 清步  
東海 林  
葛西 猛  
玉木 孝子  
風間 和夫  
伊藤 佳史  
中谷 満  
井下 貴光  
長谷川 敦也  
宗廣 邦彦  
木村 育恵  
堀江 晃  
嶋田 歩  
上山 恭男  
奥崎 敏之

櫻井 純  
佐竹 聡  
蛸子 友正  
木村 智元  
滝澤 智子  
木村 仲仁  
宮前 由一  
長田 洋幸  
星野 敬一  
栗田 芳樹  
工藤 勉  
吉本 有佑  
加藤 有佑  
千田 重幸  
深見 重幸  
松浦 俊彦  
榎山 聡

中田 和子  
辻 真紀子  
青木 昌史  
菅原 圭一  
後藤 健司  
高橋 登  
佐藤 雅士  
白石 秀一  
片山 尚  
佐藤 恵  
畠山 益枝  
相澤 光毅  
谷藤 悦子  
阿部 智子  
山崎 正吾  
本間 裕子

佐藤 大輔  
阿部 憲司  
近藤 基子  
岩館 敏幸  
千歳 航一  
森脇 秀行  
村井 秀行  
岩館 秀行  
加賀 重仁  
山家 佑太  
冬野 恒史  
丸山 伸一  
高橋 陽介  
大山 裕之  
伊藤 美樹  
岡野 伸二

小林 紋子  
佐々木 理之  
山口 啓子  
浦田 正  
藤本 大介  
日野 昌史  
濱田 陽一  
佐々木 優  
濱谷 操  
伊藤 忠司  
築田 穂子  
奥野 秀利  
三津橋 かり  
大坂 治  
清水 理絵  
木村 雅彦

坂本 秀幸  
辰巳 哲治  
杉崎 良治  
渡邊 嘉苗  
三河 正志  
戸田 修  
山形 もとこ  
松本 啓資  
横岸 澤英二  
安達 益克  
松浦 綾香  
小柳 重来  
宮野 重来  
松田 賢治  
松岡 利夫  
永井 貴之

杉山 裕規  
大山 裕香  
池田 靖秋  
吉田 豊  
斉藤 忠輝  
中村 晃代  
三浦 晃司  
田辺 信之  
中川 俊男  
村田 稔  
磯波 理恵  
鳴海 康司  
福留 重志  
可児 直之  
輪島 陽子  
山本 良子

## 【日胆ブロック】

胆振連合支部 96口

苫小牧市支部 30口

室蘭市支部 50口

日高支部 30口

## 【道東ブロック】

白銀孝志 久末 銀光  
花井 豊 今森 雅仁  
森下 寛 原見 寿史  
阿部 達也 竹内 乃扶子  
大井 誠一郎 盛 繁治  
西村 榮基 数下 一己  
三浦 寿理 天野 裕一  
釧路市支部 10口

岩館 銀佳弘 若狭 銀重人  
中村 真也 永田 征志  
館田 真 斉藤 直文  
川田 ひろみ 山田 圭介  
荒谷 順一郎 小野 寺宏二  
佐藤 和俊 竹村 博英  
須藤 一雅 松井 英昭

桜井 かつお 山田 銀知史  
佐藤 充弘 別府 浩太郎  
山川 友洋 鳥居 真之  
大谷 健人 田口 けんと  
谷口 秀文 古森 康晴  
中村 啓之 平野 秀樹

川原 千暢 横山 耕治  
藤代 和昭 高橋 真登  
天野 邦洋 今井 正昭  
高橋 正昭 二神 孝久

窪北 徹 穴戸 文絵  
横山 真登 水野 正司  
窪野 大貴 手塚 大貴

河合 昇男 栗原 賢次  
松原 まひる 小浪 綾子  
田卷 司史 段城 卓也

千葉 正夫 高橋 正紀  
安藝 麻紀 安孫子 房生  
齋藤 英之 本沢 英之

## 【道北ブロック】

上川支部 5口

宗谷支部 10口

## 【特別支援学校支部・高等学校支部・首都圏支部】

平田新次郎 加藤 琢也  
和田 悟 吉野 隆宏  
倍樓あやの 藤村 敦  
高等学校支部 10口

宮下 知子 大澤 潤子  
岡山 努 中村 洋子  
白府 士孝 島津 彰  
首都圏支部 20口

宮下 朋子  
永田 由紀  
大井川 学  
山名田 薫  
五十嵐 雅彦  
志村 克美

丸山 美晴  
鳴海 さちみ  
根山 智美  
越橋 規芳

鈴木 美喜子  
秋場 いづみ  
横田 雅美  
永長 明之

前納会費納入会員名簿追加分

伊藤 典明	昭49	黒崎 勇司	昭49
武田 隆二	昭49	玉手 道男	昭48
問谷 英克	昭49	鳴海 順二	昭52
関坂 昭典	昭49	吉田 倫子	昭48
高橋 裕子	昭48	佐藤 一夫	昭48
伊藤 伊達	昭48	能戸 誠一	昭49
小嶋 樽	昭44	宇野 正英	昭49
伊藤 伊達	昭44	青木 美鈴	昭49
阿曾 克満	昭48	体阿 順一	昭49
安濃 万知子	昭49	加屋 公孝	昭50
小橋 誠太郎	昭49	小澤 公孝	昭49
秋元 恭子	昭49	藤澤 公孝	昭49
柏崎 順一	昭49	昭49	昭49
藤川 隆	昭48	昭49	昭49

(平成二十三年七月五日現在)

夕陽会員名簿

今 宏氏	昭28	星野 孝平氏	昭19
つくば市松代5の5の29	喜恵子氏	函館市本町30の10	昭23
鎌田 政司氏	昭5	新谷 健治氏	昭23
函館市美原2の9の35の	みさ子氏	小樽市築港12の118のD	昭30
永田健之助氏	昭25	橋本 容一氏	昭30
札幌市豊平区平岸7の12の1の45の1	キヨエ氏	岩内町字宮園235の58	昭31
大谷 治義氏	昭33	本間貫太郎氏	昭31
函館市山の手2の46の15	洋子氏	苫小牧市ときわ町1の4の15	昭43
谷内田義雄氏	昭14	谷地 宗裕氏	昭25
茨城県つくば市桜ヶ丘14の6	慶子氏	苫小牧市美原町2の12の25	昭16
浅井 好二氏	昭11	高橋 茂廣氏	昭16
札幌市南区真駒内緑町3の5の3の701	節子氏	江別市東野幌本町6の38の305	昭28
金崎 紘一氏	昭42	佐藤 武良氏	昭28
函館市日吉町4の20の12	圭子氏	函館市杉並町13の16	昭22
富岡 千里氏	昭57	千葉 雄三氏	昭22
苫小牧市有珠の沢町3の5の8	賢晃氏	福島町三岳80の7	昭33
青木 路夫氏	昭35	三ツ谷重次氏	昭20
函館市乃木町5の33	悦子氏	函館市美原5の26の20	昭23
貞森 利彦氏	昭30	柴田 隆一氏	昭23
札幌市清田区北野6の3の13の3	百合子氏	函館市乃木町1の1	昭23
青木 敏夫氏	昭6	佐藤 嶋氏	昭23
函館市松陰町15の28	とく氏	室蘭市本町1の6の11	昭14
菅原 泰行氏	昭20	黒丸宗太郎氏	昭14
北斗市本町1の7の33	伊代子氏	函館市乃木町4の30	昭23

(平成二十三年七月五日現在)

前納会費制度

利用のお勧め

夕陽会本部通常会費の納入には、前納会費制度があります。ご退職された方は是非、この制度をご利用くださるようお願いいたします。

前納会費納入会員は、会員名簿に納入者の○印を付して終身会員として、次のような特典が受けられます。

①記念品（人民蕃殖の白扇）の贈呈  
その他不定期発行の記念品等の贈呈

②夕陽会報（年三回発行）と会員名簿（隔年発行）の本人への贈呈

③前納会員への加入切り替えを会報に通知掲載その他慶弔規定の適用  
前納会費の額は、卒業年次により次の四段階になっております。

- ①大正年代の卒業生 五千円
- ②昭和年代の卒業生のうち昭和五十年までの退職者 一万円
- ③同じく昭和五十一年以降の退職者 二万円
- ④平成元年以降の退職者 三万円

ご希望の方は、本部（附属小学校内財政部担当）へご一報ください。振替用紙を送付いたしますので、簡単に手続きが済みます。

なお、函館市支部と渡島支部でも支部終身会員制度をとり、その推進・拡充を図っております。両支部とも終身会費は一万円であり、それぞれ特典があります。

編集後記

◆会報二〇四号をお届けいたします。会員の皆様から玉稿や貴重なお写真をお寄せいただきましたことに紙面をお借りし厚くお礼申し上げます。

◆今号の表紙は、手づくりのイベントとして評価高まる『市民創作 函館野外劇』の様子の写真です。

道内の夏を彩る多くのイベントの中、市民の手づくりという点でユニークな野外劇です。一九八八年以来毎夏、特別史跡・五稜郭を舞台に上演される野外劇のテーマは函館の歴史をメインに繰り広げています。登場人物は、ペリー提督、高田屋嘉兵衛、土方歳三、石川啄木など超有名人から庶民まで毎回千人を超えています。出演者も裏方も一般市民で構成され、観客の飛び入りも可能な参加型のイベントになっています。今年も七月八日から始まっています。

◆各支部での研修会やブロックでの活動が盛んになってきております。

開催を予定されている支部あるいは、ブロック等は本部事務局に早めに連絡をお願いいたします。

◆情宣部の今年度のスタッフは金谷美也子（昭54卒柏野小頭）新谷公康（昭58卒北日吉小頭）土田信正（昭60卒榎法華小）です。どうぞよろしくお願いいたします。（情宣部長 古川 邦彦 記 昭56卒）

本部事務局へのご連絡などは、次の所へお願いいたします。

041 0806 函館市美原3丁目48番6号

北海道教育大学附属函館小学校内

夕陽会本部事務局

電話番号（0138）46-2235

夕陽会専用（0138）34-5520

FAX番号（0138）47-7376

題字 文化勲章受章者 金子賢蔵（鶴亭）氏（昭4卒）